

国語科 2年

## 説明文「クマゼミ増加の原因を探る」活用学習

担当 井田 由紀

### 【活動の目標】

文章全体と部分の関係や、文章と図表の関係に注意して読むことができる。

### 【 問 い 】

- ・インターネットから気になる図表を選び、それに関わることを調べましょう。
- ・図表をもとに三段落構成の説明文をかきましょう。その際に図表に表れている数値等を使いましょう。

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
B2 調査活動 自分の興味・関心に応じた図表を探す 自分の意見を述べるのに適した資料をえらぶ	図書室で探した資料や教師が準備した複数資料から選択する
B4 表現・制作 読み手に説明する資料をドキュメントで作成	読み手に説明する資料を手書きで作成
C1 発表・話し合い クラウドに保存された資料を各自が端末から見る 保存・共有化されたファイルを使用 (多対多)	完成した説明文を回して読みあう 発表にて行う (1対多)

### 【資料】生徒が作成したレポート

**紅茶かコーヒーか**

私は朝に飲む飲料の癖に興味を持ったので、それについて調べることにした。すると図1のような資料が見つかった。

そこで私は「労働者の労働時間が長い国ほどコーヒーを飲む割合が高い」という仮説を立てた。その正誤を確かめるため、各国の一日の労働時間(休日含む)と比較したところ、労働時間の長い国から順に1.日本 350分2.インド 310分3.アメリカ 265分4.イギリス 260分、となっていた。つまり、仮説は誤りであったことが証明された。

では、なぜ地球と紅茶で茶が出るのだろうか。次に私が守った仮説は「コーヒーよりも紅茶のほうが高く多くの国では安いコーヒーが飲まれるが、生産量の多い国では紅茶の値段のほうが安く、紅茶のほうが好まれる。」というものである。まず、紅茶のほうが効果であるということを証明する、資料を引用します。Cafe's cafeより引用開始 「コーヒーは先物などの市場などにもあるように生産量と値段は密接な関係にあります。一方、茶はそのグレードによって売買される品ごとにオークション的に値段がきまってきます。つまり、いい茶葉はそもそもが高い」 引用終了。

以上のことから、紅茶のほうが基本的には値段が高い事がわかった。また、図2の資料から、インド付近の地域でも紅茶の生産量が高いことがわかった。以上のことからインドで紅茶が好まれている理由がわかった。またイギリスで紅茶を飲む割合が高いのは、インドとの間わりが深いことや、日常的な文化として紅茶が根付いていることであると考える事ができる。

まとめると、紅茶の生産地や日常的な文化としてその地に根付いているところでは紅茶。また、それ以外のところでは基本的にコーヒーが好まれる傾向にあることがわかった。

(図1) PR TIMESより引用

2010	
国名	生産量(t)
1 インド	1,070,000
2 スリランカ	329,000
3 ケニア	304,000
4 インドネシア	147,000
5 ガンガララシュ	62,000
6 中国	54,000
7 エチオピア	42,000
8 ウガンダ	39,000
9 タンザニア	29,000
総計	2,443,000

(図2) 紅茶探訪より引用

### 【ICT 機器を活用する良さ】

- ChromeBook (一人一台端末) を活用することで自分の興味や関心に応じた調べ学習を実現することが簡単にでき、学習内容の幅の広がりを実感した。  
(準備時間の短縮にもつながった。)
- 作成したレポートの修正作業がスムーズに行うことができた。
- ファイルを共有化することで他者の学びを見合うことがスムーズにできた。
- 自分で選んだ資料をもとに、説明文を作成することで、主体的に活動に取り組む様子がうかがえた。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- ・パソコン操作と作文推敲を個別に指導する必要がある公平に関われないことがあったかもしれない。
- ・紙媒体のほうが全体像を見やすい。  
活動の途中にプリントアウトをする作業をとりいれても良いと思う。